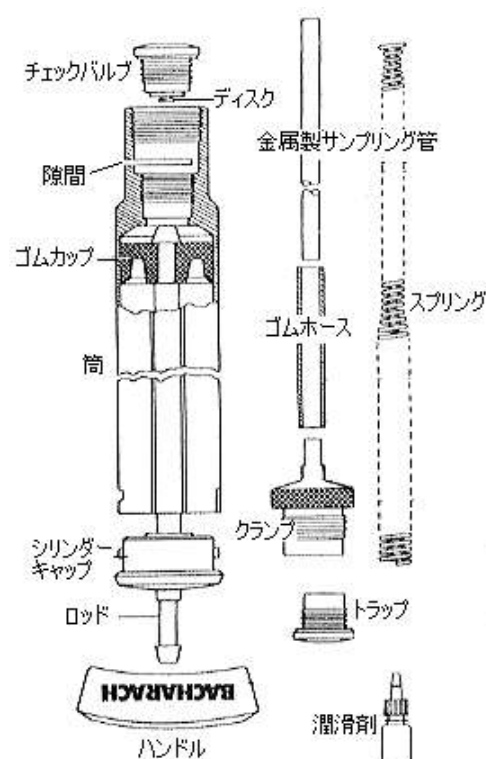
バカラック・スモークテスタ 取扱説明書

オイルバーナのスモーク・テストをする際の取扱説明

1. 金属製サンプリング管を筒外側のホルダーから外します。
2. クランプを緩め、切取ったフィルタペーパー1片を隙間に挟み、クランプを締めます。
3. サンプリング管を煙導出口とドラフト圧レギュレータ間にある煙導横の穴を通して、少なくとも約 6cm 煙導に差込みます。
4. ポンプ本体のハンドルをフルに 10 回引っ張りポンピングを行います。
5. 煙導からサンプリング管を取出し、クランプを緩め、フィルタペーパーを取出します。
6. フィルタペーパーに付着したスモークをスモークスケールの 10 個のスモークサンプルに合わせます。この比較作業の際、フィルタペーパーは、白色クリップとスモークスケールとの間に通し、スモークスケール背面をスライドさせます。白色クリップで後ろの透過を遮り、フィルタ ペーパーに付着したスモークを、各スモークサンプルの真中のドーナツ穴から覗かせて比較作業を行ないます。
7. 一度使ったフィルタペーパーをそのまま使用する場合、必ず既にスモークが付着した部分から外してクランプに留めるようにして下さい。

最大限の正確さを出すための注意

1. バカラック・スモークテスタは結露ドレーン機能、チェックバルブを付けることによって改良が重ねられます。しかし、やはりテストを行う前に、冷えた本体を室温になじませて温度を上げるのが良い使用方法です。こうすると、結露を防ぐ事ができるのです。
2. 10 回使用する度に、サンプリング管を軽く叩いてススや錆を落とします。また、隙間にフィルタペーパーを挟まずにクランプを締め、ハンドルを引っ張って数回素早くポンピングを行って、クリーニングを行います。
3. 実際の計測時には、10 回フルにハンドルを引っ張り、引っ張り切った時に数秒間止めるようにして下さい。また一回引っ張るのに 3~4 秒かけて、しっかりと吸込ませるようにします。
4. バカラック・スモークテスタにエア漏れが無いか、時々チェックするようにして下さい。（下記のメンテナンス要領をお読み下さい。）
5. 最大限の正確さを得るため、手にとったスモークスケールは腕を真っ直ぐ伸ばした状態まで目から離して、フィルタペーパーに付着したスモークとスモークサンプルを比較します。
6. 使用しない時、スモークスケールは封筒の中に入れて、汚れないよう清潔な状態で保存します。

メンテナンス要領

1. フィルタペーパーの濡れ

スモークテスタが、内部で結露の流れを堰き止めることで、フィルタペーパーが濡れずに済んでいます。本体の筒の中に押し込まれたトラップとチェックバルブの組合せの働きで、ポンピング時にシリンダー内の結露がフィルターに到達するのを妨げています。クランプねじ込まれたトラップには、本当なら吸込み時にフィルタペーパーを濡らす結露を堰止めます。フィルタペーパーが濡れることでトラップに溜まった水があふれていることが分ったときには、トラップを取出してクリーニングして下さい。製品に付属している鍵型のレンチでトラップは取出して下さい。

トラップは、よく振って、中の水分を飛ばします。チェックバルブを同様にクリーニングする際には、ディスクを取除いて行ないます。ディスクを取替える時には、ディスクの段差のある面が内側に向いている事を確認し、取付けます。

トラップとフィルタペーパーに隣接する全ての面を、清潔な布で拭き取って乾かします。また、先にトラップなどを元の状態に組み戻してから、フィルタペーパーを隙間に挟まずにクランプを締め、ハンドルを引張って 10~15 回フルにポンピングします。（室温下で。）

部品名称	部品型番
ｽﾍﾟｱﾌｨﾙﾀｰﾍﾟｰﾊﾟｰ（非図示）	HT-1651
潤滑剤	HT-1652
ｽﾓｰｸｽｹｰﾙ（非図示）	HT-1653
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ管用ｸﾘｯﾌﾟ（非図示）	HT-1654
金属製サンプリング管	HT-1655
スプリング	HT-1656
ゴムホース	HT-1657
チェックバルブ	HT-1658
ディスク	HT-1659
トラップ	HT-1661
クランプ	HT-1662
ゴムカップ	HT-1666
鍵型レンチ （非図示）	HT-1668

※上記部品のご注文は、納期がかかる物もございます。
裏面の TEL 番号へ問い合わせて下さい。

2. **エア漏れ**

フィルタペーパーを境にポンプ筒側でのエア漏れをチェックするには、硬いカードを(テレフォンカード2枚なら最適。)しっかりと隙間に挟みます。ハンドルを約2.5cm引いて、手を離します。この時スモークテスタのハンドルは、ほぼ元の位置に戻らねばなりません。こうならない時は、ゴムカップの傷み、もしくはチェックバルブの緩みが原因となっています。

3. **もしエア漏れがあったら…**

ゴムカップが傷んでいるかどうかを検査するには、まず左回しでシリンダーキャップを取り、筒からピストンを引き出します。 この際に、筒の端にある切込み(シリンダーキャップを固定する)の金属切断部でゴムカップを傷付けないよう、抜取る直前にはゆっくりと回して取出します。もし、ゴムカップに漏れを起こすのに十分な磨耗、損傷がある場合、下記「**4.部品交換**」に従って交換します。

ゴムカップが僅かに磨耗している場合は、下記「**6.潤滑剤の塗布**」にあるように潤滑剤を塗布すれば、漏れは止まります。

金属製サンプリング管につながるゴムホースを検査するには、まずクランプをしっかりと締めます。次に、ガード用金属スプリングを右回しにして、筒側から金属製サンプリング管の方へ移動させ、ゴムホースを本体、金属製サンプリング管から離し、新しい物と取替えて比較検査します。

4. **部品交換**

ハンドル、ゴムカップを除いて、バカラック・スモークテスタは、部品交換のために分解可能です。この2つの部品を、部品交換以外の理由で、ロッドから取外すことはお勧めできません。ゴム製部品の損傷は、無理やり取外す行為の結果起こるからです。

もし、ハンドルやゴムカップを交換しなければならない時は、切ってロッドから取外して下さい。新しい物を先細りになったロッドの先端へ、留め部分が噛合うまで、押し付けて取付けます。

★ **このゴムカップ、もしくはハンドルがロッドに正しく取付けられたことを確かめ、元の適切な位置にシリンダーキャップが留められている事を確認します。**

5. **バカラック・スモークテスタのクリーニング**

新たに潤滑剤を塗布することより、スモークテスタを常に完全にクリーニングすることが優先です。個々の部品は、本取扱説明書の要請 事項に従って、クリーニングして下さい。

徹底的にクリーニングするには、この器具は完全に分解されねばなりません。

★ **上記「4. 部品交換」で説明された状況を除いて、ハンドルやゴムカップを取外す事はおやめ下さい。**

潤滑油除去専用の溶剤を使用して、ゴムカップや筒の内側から古い潤滑剤を除去する時は、十分慎重にお取扱下さい。

注意! **溶剤を使用する際には、常にご用心頂くと共に、製造者の指示事項に従って下さい。**

クリーニングするには、ウエスに溶剤を染込ませ、筒中の潤滑剤の被覆を完全に取ります。

チェックバルブからディスクを取外してクリーニングします。穴が清潔になった事を確かめます。ディスクを取替える際には、ディスクの段差のある側が内向きになっている事を確認します。

凝縮された煙導排ガスで、ロッド表面には残留物が形成されますが、布やすりで擦り落として磨いて下さい。こうすると、ロッドがシリンダーキャップの穴に逆らって上下運動をして、シリンダーキャップが磨耗することを防止します。

6. **潤滑剤の塗布**

フィルタペーパーを隙間に挟んで、ワンストローク 3~4 秒のサンプリングスピードで引く時にきつく感じられる時は通常、潤滑剤が不足しています。上記説明に従い、潤滑剤を塗布する前にまず徹底的にクリーニングを行ないます。

バカラック・潤滑剤は、優れた潤滑品質、粘度、化学的非活性、長持ち、ゆえに選りすぐられた物です。代替品のご使用は お勧めできません。1枚の綿モスリンの布でゴムカップを覆ったら、生地の織目を通して潤滑剤が染み出して来る位に、ゴムカップの外側に十分な潤滑剤を塗り広げるのが、最善の塗布方法です。綿モスリンでなくても、起毛やけばの無い薄い布であれば他の物でも構いません。

潤滑剤が塗布され、布で覆われたゴムカップを筒に挿入し、潤滑剤の層が筒の内側全体に定着するまで、ハンドルを前後させます。おそらく、ゴムカップに潤滑剤をもっと補給し、再度布で覆い、この作業を何度か繰返さないと、潤滑剤の層は定着しません。逆に潤滑剤を塗り過ぎてしまうと、保管中にスモークテスタから潤滑剤がもれ出てきますので、ご注意下さい。

筒の内側に十分潤滑剤が塗布された後、綿モスリンに残っている潤滑剤をゴムカップのふちに延ばし、布を取り去って、スモークテスタを再度組立てます。